

Case 5

実習授業を通じた商品開発プロジェクト① うこっけいハム編



Step 1

大多摩ハムでは、うこっけいの鶏肉を利用したハムを開発し、その普及のために、新しい食べ方をお客様に提案したいと考えていました。そこで、授業を通じて商品開発プロジェクトを実施しました。プロジェクトの実施にあたり、まずは、うこっけいハム開発の経緯や、作り方等を学びました。



企業からのプレゼンテーション

Step 2

企業からのプレゼンテーションの後、学生は自分たちの考えたアイデアを説明し、企業から意見をもらいました。厳しいコメントもありましたが、ここから、商品開発がスタートします。試作とグループ内での意見交換を繰り返し、途中、企業との意見交換を経て、最終報告会を行いました。



企業と意見交換

Step 3

報告会では、うこっけいハムを用いたさつま揚げをはじめ、4種類のユニークな商品が提案されました。企業からも一定の評価を得ました。提案商品のいくつかは、その後、大多摩ハム併設のレストラン「シュトゥーベン大多摩」にてテスト販売され、お客様に提供されました。



成果報告会にて

Topics

プロジェクトに参加した学生のうちの1グループが「社会人基礎力グランプリ東日本予選」（経済産業省主催）に参加しました。残念ながら本選には進むことはできませんでしたが、他に劣らない発表で奨励賞をいただきました。

Data

- パートナー 株式会社大多摩ハム小林商会
- 担当教員 山崎薫講師/奈良一寛講師/岩見哲夫教授
(現代生活学部生活デザイン学科)
- 実施期間 2009年6月～2009年12月

Comments

本プロジェクトは、授業を通じた連携です。そのため、期間が短く、できることも限定的です。しかし、一方で、多くの学生のアイデアが得られるというメリットもあり、本プロジェクトでも、ユニークな提案が見られました。また、提案商品のいくつかは、実際にお客様に提供されています。学生の提案は、直ちに商品化するレベルには至りませんが、プロの手を加えていただくことにより、実際に販売することも可能となります。